

# 委員会活動レポート ①

常任委員会や特別委員会などは、市民生活に深く関わる課題などについて、会期中以外にも調査、研究を行っています。最近の活動内容を紹介します。

## 佐賀空港の自衛隊駐屯地計画に関する調査特別委員会

9月25日(水)

九州防衛局から参考人を招致し、現地視察および駐屯地整備に係る聞き取り調査を実施。

**【現地視察】**佐賀空港ターミナルビルの屋上で駐屯地工事の進捗状況について説明を受けた後、駐屯地西側の排水関連施設で工事の進捗状況について説明を受けました。

**【九州防衛局の説明】**駐屯地工事は、隊庁舎の外壁や格納庫の鉄骨等、オスプレイの移駐に必要な施設について計画どおり進めている。また、排水関連施設では、送水管設置等の工事を行っている。令和5年度に実施した環境現況調査では、工事の影響で環境基準値等を超過した状況は確認されていない。令和7年度予算で、隊員等の宿舍の整備経費に約35億円を計上しており、部隊の即応性を確保するため、南川副地区に建設することを検討している。

**Q** 排水関連施設の工事で生じた掘削土を、駐屯地工事の埋戻材とするために混合した石灰の量は。

**A** 掘削土1立方メートルに対し50キログラム(5%)の石灰と混合しており、掘削土の総量が約37万立方メートルであったため、約1万8,500トンを使用した。

**Q** 掘削土に石灰を混合して駐屯地工事の埋戻材として使用すると、水質に影響が生じるのではないかと。

**A** 駐屯地工事のエリアは、長さ20メートル以上の鋼矢板を地中に打ち込んで囲っており、地下を通じても水が流出しないよう対応している。また、濁水プラントを設置し、公害防止協定で定められた基準を満たすよう処理している。

**Q** 隊員等の宿舍は、駐屯地内の隊庁舎と南川副地区に計画している宿舍の2カ所のみか。

**A** 2カ所に加えて、民間のアパート等を借り上げる想定である。



九州防衛局職員の説明を受ける委員

## 福祉教育委員会

意見交換会

10月4日(金)

「図書館を友とする会・さが」との意見交換会

市立図書館の大規模改修や、図書館員の雇用状態、図書館周辺の環境整備に関する問題・課題点などについて意見交換しました。



意見交換会の様子

## 議会広報広聴委員会

行政視察

11月19日(火) 鹿児島県霧島市

●「議員と語りかい」について

11月20日(水) 大分県大分市

●若年層との意見交換について

●若年層に特化した議会モニターについて

両市ともに、担当委員会の委員から取り組みの経緯や今後の課題などの熱心な説明を受けました。質疑応答では、今後の議会報告会の在り方を念頭に、活発な意見交換を行いました。今後の議会報告会の参考になる充実した研修となりました。



霧島市役所



大分市役所

# 委員会活動レポート ②

## 九州新幹線整備に関する調査特別委員会

9月5日(木)

これまでの調査を基に、佐賀市にとって課題と思われる点を整理し、委員間協議を行いました。

### 【委員間協議】

- 仮に、佐賀駅周辺に新幹線の停車駅や新幹線用線路が設置される場合、そのために必要な用地の確保が課題である。
- 全国新幹線鉄道整備法により佐賀市にも財政負担を求められる可能性がある。また、求められた場合、現時点では、佐賀市の財政負担について具体的な割合や金額が不明である。
- 現在の在来線はどのくらい減便になるのか、現段階ではわからない。

今後は、今回整理した内容を基に調査を進めていくこととしました。

10月22日(火)

執行部から、昭和61年に示された環境影響評価報告書案に掲載されている計画概要図や環境図を基に、佐賀駅周辺の概要などの説明を受けました。また、環境影響評価報告書案が公表された年から現在までの佐賀駅周辺の土地利用や用途地域の変遷について説明を受けました。

執行部からの説明の後、佐賀駅周辺の状況について現地調査し、委員間協議を行いました。

### 【委員間協議】

- 仮に、佐賀駅を通るルートで整備した場合、佐賀駅周辺の用地確保が課題であると感じたが、以前、国土交通省から説明があったように、技術的には既存駅への新駅設置も可能ではないかと感じた。
- 新幹線整備を踏まえ、長期的な視点で佐賀市のまちづくりをどうしていくか考えていかなければならない。
- 新幹線整備に関する手続きの流れや、関係機関の役割や権限、また、地元自治体の意見を反映させることができるのかについても調査していきたい。



JR 佐賀駅サンライズ口 (北口) 周辺での現地調査

## 中核市移行に関する調査特別委員会

10月21日(月)

8月2日に開催された第7回庁内検討会の内容等について説明を求めました。執行部からは、中核市移行自治体から統括保健師を講師に招いて7月に開催した中核市の保健師業務に関する職員勉強会で見てきた課題や展望、また10月に新たに設置された佐賀県・佐賀市勉強会についての説明がありました。

**Q** 移行宣言までのスケジュールはどのように考えているのか。

**A** これまでは他都市の事例を研究してきたが、移譲される業務がどういったものを理解することも必要であり、ワーキンググループの中でさらに研究していく。移行宣言の期限は設けていないが、スピード感を持ちながら丁寧に進めていきたい。

**Q** 佐賀県・佐賀市勉強会での分野毎のワーキンググループの開催頻度はどのように考えているのか。

**A** 分野ごとに移譲される事務のボリュームが違うので、開催の頻度も異なる。1番多いところでは、最低でも月に1回は開催したいと考えている。

**Q** 任意で設置できる児童相談所なども、ワーキンググループで取り扱ったほうがいいのではないのか。

**A** まずは法定移譲事務の移行を優先したい。任意で権限を受けられるものは、適宜、県と情報交換をしていきたい。

**Q** 連携中枢都市圏構想は、今後どのような展開を考えているのか。

**A** 連携中枢都市圏構想として、どのような事業が佐賀市にとって有効なのか、庁内で研究を進めている。また、近隣の中核市を視察し、調査している状況である。

**Q** 保健所の設置で懸念するのは、獣医師などの専門職の確保である。勉強会でも、保健所業務の実情をしっかりと確認してほしい。

**A** 専門職の確保については、採用につながる良策をワーキンググループで県と協議していきたい。

